1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590101194		
法人名	合同会社おおぞら介護・家政婦センター		
事業所名	グループホームおおぞら	ユニット名	1号館
所在地	宮崎市阿波岐原町坂元1928-1		
自己評価作成日	令和7年1月15日	評価結果市町村受理日	令和7年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosyo_index=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和7年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設時より「家庭の延長」をテーマに利用者様に穏やかに過ごして頂けるような支援を心がけています。コロナなどの感染症の懸念もありますが、対策と配慮を充分に行い、家族や知人との面会を継続しています。季節ごとのイベントや行事も積極的に取り組み、四季を感じたり、食の楽しみを感じて頂けるような工夫をしています。安全のみを優先し、本人の残存能力を奪うことのないよう、後方支援に努め、ご家族にも協力頂きながら、家庭的な生活の実現を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後4年目のホームで建物の内外はまだ新しく、快適な生活が確保できる環境整備が行われている。特にホールから出ると綺麗に整備された庭園があり、利用者が気持ちよく外気浴を受けることができる。また、玄関傍には家族等との面会室があり、各居室には洗面所とトイレが整備され、2階への昇降にはエレベーターが利用できる。介護ケアにおいては、利用者との繋がりが重視されており、面会機会の確保を大事にしている。このように利用者が快適に過ごせる配慮や対応が随所に見られる。一方、経験豊富な職員も多く、利用者には家族のように暖かく接している。管理者等には地域密着型事業所としての意識が高く、積極的に地域と交わり、地域貢献にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念と基本方針を定めているが、一部職員に浸透していないところも見受けられる。今後は全体会議の際に確認するようにしたい。		事業所の運営理念は事務室や職員休憩室に掲示され、併せて職員の回覧文書に添付したり、職員会議で理念を読み上げたりして、職員の理解促進や周知に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やイベントには積極的に参加し、交流も深まってきている。		地域の行事等には積極的に参加・協力を行っている。特に地域の清掃活動や認知症サポーター研修等にも職員を派遣し、事業所の地域貢献として取り組んでいる。利用者も庭に出て地域の子供達と交流したり、祭りの神輿巡行を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や学校、民生委員さんを通じて介護に関する悩みや相談を受付ける体制があることを広めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回多くの方に出席して頂き、活発な意見交換ができていていると思う。		会議は地域関係者や家族代表など9名で構成され、毎回活発な情報・意見交換が行われている。事業所としては運営状況を積極的に情報公開しながら理解を得ることに努め、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	宮崎市の方針として基本的にはFAXやメールでのやり取りを推奨されているが、必要と判断したときは直接出向いて報告、相談を行っている。		最近では地域包括支援センターを通じて連絡・相談することが多いが、苦情相談への対応として市に協議し解決を図った事例があり、市との連携は必要に応じて適切に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議でも読み合わせを行っており、十分に理解できている。		職員会議では身体拘束適正化に向けた関係資料を準備し、全員で読み上げたりして認識の共有化を図っている。玄関の鍵は日中は解錠し、夜間は施錠する等、指針やマニュアルに基づき身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修があれば積極的に参加している。また、その情報を職員間で共有している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会としては不足している部分もあるが、情報の共有はできている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の説明を十分に行うと共に、家族とのコミュニケーションを大切に、相談しやすい環境作りに努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頂いた意見や相談については良いことも悪いことも隠さず運営推進会議にも報告し、意見やアドバイスを頂いている。		要望はあまり出ていないものの、家族から監視カメラの居室内設置を要望された際は対応可能な代替案を示し理解を得ている。また、訪問マッサージの受入れや運動メニューの日課組み入れなどの要望にも積極的に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の際に意見を聞く機会を設けている。また、代表者が職員と直接面談する機会も設けている。		職員会議は毎月1回行われており、代表者や管理者による職員との個別面談の機会も設けられている。職員からの意見、要望は聞き入れられることが多く、組織内での意思疎通は良好である。また、管理者の運営改善に向けた意欲も高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や勤務に対する姿勢、貢献度を正當に評価し、査定を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせて参加する研修を振り分けたり、施設内での役割分担を実施している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はもとより異業種との交流も積極的に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新たに入居される利用者様は個々に介護度やできること、できないことが違う為、毎回十分な聞き取りを行ってからサービスを提供するように心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様同様、ご家族の不安や要望も大切にし、十分な打合せと説明を心がけている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまで培った知識や経験を活かし、まず必要なことから取り組み、状況に応じて柔軟に対応するよう心がけている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、食事の準備や片付けなど、可能な範囲で協力して頂いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様を支援する上でご家族の協力は不可欠であることを導入段階で説明している。必要なときは遠慮なく相談させて頂いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナなどの感染症の影響で積極的な外出は控えているが、面会を継続することで、関係継続支援となっている。	利用者と家族との関係維持を重視し、それに向けた配慮や支援を積極的に行っている。特に家族との面会機会を大事にしている。通院の機会を利用して自宅近くをドライブしたり、家族の希望があればテレビ電話で話す機会を設けることもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の声かけや支えあいに感謝することで、継続した関わり合いが生まれている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	縁があって出会ったことを大切にし、いつでも相談やお手伝いが可能であることを利用者様やご家族には伝えている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員やケアマネ、管理者や看護師など多方面から意見を求め、意向の把握に努めている。		コミュニケーションを取るのが難しい利用者も多く、普段接する中でのちょっとした表情の変化や発する言葉に注目し、職員間で気づいたことを家族に確かめながら利用者の思いや意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人やご家族、これまで関わりのあった施設や病院などからできるだけ多くの情報を収集するよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入手した情報だけを鵜呑みにせず、共に過ごす日常生活の中から個人の現状を把握するよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員、管理者、看護師、ケアマネなど複数の立場から今必要な課題やケアの方法を導き出している。必要に応じてかかりつけ医や薬剤師などの意見も求めている。		担当職員を中心に管理者、看護師、ケアマネ等で、3か月に1回を基本にモニタリングを行い、利用者や家族の意見も聞きながら現状に即した介護計画の見直し・作成を行っている。また、必要に応じてかかりつけ医等の意見も求めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとの記録や個別の集計表、申し送りノートなどを活用し、情報の共有やサービスに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とご家族が安心して生活していくために施設の枠を越えて必要と思われる提案やアドバイスをやっている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントには利用者様と一緒に参加したり、或いは訪問してもらったりしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を継続して頂くことを基本としている。状況に応じて必要な場合は一緒に考えるようにしている。		殆どの利用者が以前からのかかりつけ医を継続しており、受診に際しては、看護師が普段の健康状態や病状等をまとめた連絡票を示している。なお、通院は家族の同行を基本としているが必要に応じて職員による受診支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師依頼リストを作成し、介護職と看護職の連携を密にしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の手続き等は施設長やケアマネが率先して行い、迅速な情報交換や退院後のフォローがスムーズになるよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行い、その時期が来たときに再度話し合いを行っているが、地域の関係者と共に行う支援はない。		重度化した場合の対応については契約時に文書で同意を得ているが、これまで看取りの実績は無く、重度化した事例では改めて家族と話し合いをしている。看護師が週3日勤務しており、近所に住んでいることから病状の急変等には対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルは整備しているが、定期的な訓練はできていない。今後定期訓練を行いたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内に備蓄品を準備している。地域の防災訓練にも参加し、訓練を行っている。		避難訓練が年2回行われ、消防署からの助言を得ながら対応している。地域の防災訓練にも職員を派遣したりしている。また、備蓄品は全員について3日分を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員にはとらなりにご家族がいると思って介護するよう周知している。管理者やベテラン職員には若手や新人職員の指導をお願いしている。		介護経験が短い職員は少なく、ベテラン職員による若手・新人職員への指導が日常の介護ケアに活かされている。特に利用者には家族がそばにいるように感謝を込めて優しく接し、一人ひとりの人格の尊重と、誇りを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護職員主導の声かけとならないよう、利用者様に決定(選択)して頂けるような声かけを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の考えや行動、思いは日々変化するものであることを踏まえ、先を急ぐ介護とならないよう、職員は後方支援に重きを置くようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとの身だしなみが楽しめるよう、洋服選びや髪型の希望を聞くようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニューとなるよう配慮している。月に1度はテーブルの上で調理することで、やりがいや楽しみを持ってもらっている。		普段は業者から届く食材とレシピに沿って調理をし、提供しているが、利用者の声を聞いてメニュー変更を行い、ホットプレートで囲みケーキを焼いたり、季節ごとに行事食を取り入れたりしている。利用者と一緒に下膳やテーブル拭きも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量チェックシートを活用し、食事量や水分量の把握に努めている。状況に応じてかかりつけ医に相談し、必要な指示や処方をお願いしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては個々の残存能力や生活習慣に配慮しつつ、衛生状態が保たれるよう努めている。必要な場合は家族に相談し、歯科医師や歯科衛生士に口腔清掃をお願いしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室内にトイレを設置することでいつでも排泄が可能であり、残存能力の維持に繋がっている。排泄パターンについてはチェックシートを活用している。		各居室にトイレが設置してあり、ベッドから立ち上がってすぐに用を済ませることができるため、排泄の自立に向けた誘導や支援が行いやすい。プライバシーを確保した上で、トイレ使用時も廊下側から様子を確認できるような工夫もしてある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多くの利用者様が便秘の状態、かかりつけ医に相談し、対策をしている。今後は薬に頼らない予防に取り組みたい。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しめるよう、曜日や時間の制約は特に設けていない。また、必要な場合はいつでも入浴できるようにしている。		現在、入浴は月・水・金と火・木・土の2グループに分け週3回の利用を基本としているが、柔軟にも対応している。平均して15分程度浴室でゆっくり過ごし、時にはゆず湯を楽しむ機会もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間、睡眠時間は個々に違い、昼間の休息が必要な場合もある。画一的なケアとならないよう配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに薬箱で管理し、その目的や用法、用量について薬情で確認できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	週ごとに変化のあるレクリエーションを実施したり、季節ごとのイベントを計画したりしている。ご家族の協力により、嗜好品などの差入れもして頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナなどの感染症の影響で積極的な外出支援は控えているが、施設のイベントとして外出する機会を設けている。		ホールから出ると整備された庭園が敷地内にあり、日常的に車いすのまま散歩ができ、ベンチに腰かけ、お茶を飲みながら外気浴も受けられる。近くの神社を散歩したり、公園等に花見やドライブを兼ねて出かける支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様本人での管理が困難な利用者様が多いが、利用者様自身でお金を所持し、病院や買い物時に支払いをされている方もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはないが、電話の持ち込みやタブレットを利用した通信などの支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部には季節感のあるしつらえを行うようにしている。ホールには利用者様が写った写真を掲示し、居心地良く過ごせるようにしている。		ホールに接して対面キッチンがあり、調理中でも利用者と言葉を交わしたり、テーブルを片側に寄せると全員で体操や風船ゲームができる。壁には利用者のスナップ写真が掲示され、室内には花を飾って、居心地よく過ごせるように工夫している	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには十分な広さがあり、それぞれの居場所づくりが可能となっている。交流室も自由に使えるようになっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも新しいものではなく、使い慣れたものや馴染みのものを用意して頂くようお願いしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は段差なくどこでも自由に行き来できるようになっている。また、中心部にホールを設けることで行き先に迷うことがない間取りとなっている。			